

平成 30 年 10 月 20 日

北関東フォーラム

於：シムックス

**中斎塾 北関東フォーラム  
平成 30 年度 第 9 回**

先日、川村代表幹事の会社の創業者、川村文次さんが 94 歳で亡くなられ、お通夜に参列致しました。六中観は、困っている時や苦しんでいる時は当然考えるわけですが、人の生き死にの時にはより切実に考えます。川村さんの葬儀に参列して、色々なことを思い出しました。

私がお社を創業したのは昭和 50 年 8 月 22 日、28 歳の時です。その頃、創業者の川村さんには大変お世話になりました。当時は現金と引き換えでなければ商品を売ってくれないのが普通でしたが、川村さんは「うちは、老舗も出来立てほやほやの会社も同じ取引条件で商売をしています」と言われて、そこからお付き合いが始まりました。

創業から 10 年経ち、20 年経ち、30 年も経つと、創業当時お付き合いをしていた会社はどんどん消えてしまうのですが、川村さんの会社は更に発展しておられます。やはり後継者がきちんと受け継ぐと、会社は伸びてゆくものだと感じています。

何度かお話をしていますが、私は訃報の連絡を戴いた時、以前は、葬儀に行くべきか行くまいか、考えてから行きました。途中から、亡くなった方にお別れの挨拶をしたいと思ったら、何も考えず素直にお別れに行こうと決めました。葬式とは、今生きている人が自分の心持ちに区切りをつけるために必要なものだと私は思っています。

「願わくは花のもとにて春死なむ その如月の望月のころ」という西行法師の歌があります。如月は 2 月、望月は満月ですから 15 日。如月の満月の頃、満開の桜の下で死にたいものだと西行法師は歌い、その通り 2 月 16 日に亡くなりました。前回お話した山岡鉄舟は、「本日、旅立ちます」と坐禅を組んで亡くなりました。そこまでいかななくても、だいたい自分の死期はのころかなと考える時期があるのだと思います。

川村文次さん、大往生でございました。ご冥福をお祈り申し上げます。

10 月 7 日に明治神宮の奉納吟詠がありました。参加された皆様は大変御苦労さまでした。

数年前の吟詠では参加された会員さんが移動の際に転んで、手を骨折してしまったことがあります。今回はお一人、自宅で梯子から落ちて骨折してしまい、残念ながら欠席となってしまいました。

吟詠に参加される方は結構年配の方が多いため、今回は詩吟の前に、骨折をしないように骨密度を上げる運動を紹介しました。つま先立ちになって、踵をドンと下ろす。還暦を過ぎた方は一日数回やってみて下さいと、壇上でメンバー全員でこの運動を実践してみたところ、参加者皆さん顔をあげて興味を示しておられました。

もう一つ、最近の動きの中で、世の中は変わっていると感じたことを申します。

皆さんは買い物をする時、現金で支払うことが普通だという方はどれくらいおられますか？・・・圧倒的に多いですね。スマホで払う方は？・・・若干おられます。

先日、タクシーに乗って運転手さんに聞きましたら、最近は料金をスマホやカード、腕時計で払う人が増えて、現金で払う人は半分以下になっているそうです。オリンピックに向けてタクシー業界もだいぶ中身が変わってきていると感じました。スマホを持っていない人がまだまだ多いわけですが、世の中はどんどん変わって来ますね。

銀行も同じです。以前も話したと思いますが、みずほ銀行の株主総会で頭取が、お金を貸し付けて稼ぐ仕事は半分以下になったと言っていました。都市銀行で一番成績の悪い銀行がそう言っているのです。いわんや地方銀行は今、生き残りのために目の色を変えているのだらうと思います。ここ数年は銀行と話をすると、お金を借りて下さいという話はとても少なくなりました。様々な金融商品を扱って、手数料で稼ごうという話が多くなりました。

### 恒例の質問・・・習慣として身に付ける

では、恒例の質問を致します。今年はまだ若干残っていますが、どうでしょうか。

○ 今年は良い日々が続いたなと思う方

手を挙げる方が増えました。良いことですね。念押しすると、良い日か悪い日かは客観ではありません。主観でお考え下さい。

○ 今年は嘘をつくことがとても少なかったと思う方

嘘をつく、朝の目覚めが良くありません。嘘をつかなかったと思うと、すっきり起きられます。

○ 今年は有難うと言うことがとても多かった方

○ では、有難うと言われることも多かった方

胸に手を当てて、有難うと言われることが少ないと思ったなら、増やすように努力しましょう。

○ 今年は健康法を無意識のうちに実践していたと思う方  
意識的に、<健康法をやらなきゃ>と想着している時は、身についていないものです。  
無意識のうちに健康法を実践していれば、身に付いたと想着下さい。何でも無意識に出来るようになれば上等です。

○ 今年は自分磨きをよくやったと思う方  
○ では、自分磨きを無意識にやっている方  
これも無意識で出来ればたいしたものですが、なかなか難しいですね。

○ 昨晚寝る時、今日は良い日だったと想着寝た方

○ では、明日も良い日だったなど過去形で想着寝た方

数名手が挙がりました。これは意識的にやらないと頭の中に入ってきません。

恒例の質問を致しました。無意識にこの習慣が身に付いているかどうか、自問自答してみして下さい。

### 君子に三畏あり

では、論語の解説に参りましょう。本日は季氏篇 8~10 です。

井澤幹事の素読は、中身が良く分かっていて、自分の中で咀嚼していると感じました。特に、「孔子曰く、生まれながらにして之を知る者は上なり」のところは、とても言葉が馴染んでいて、前と後の行と全然違いました。

こうしいわ くんし さんいあ てんめい おそ たいじん おそ せいじん げん おそ しょうじん  
【八】孔子曰く、君子に三畏有り。天命を畏れ、大人を畏れ、聖人の言を畏る。小人  
てんめい し おそ たいじん な せいじん げん あなど  
は天命を知らずして畏れず。大人に狎れ、聖人の言を侮る。

孔子が言うには、君子は三つの畏れ（畏敬の念）を持っている。

天命（天上にある神の命令）を畏れ、大人（徳の高い支配者、君主）を畏れ、聖人（天命を伝えてくれる人物）の言葉を畏れる。

小さい人物は天の存在を知らずに自分の私利私欲のまま生きているから、畏敬などはない。大人に対して凶々しく、聖人の言葉も侮るものだ。

大人も聖人も同じようなものです。皇帝の中であの人は聖人。あの人は大人といった区分けをしてもよいでしょう。

皆さんは宗教を信じておられますか？

無宗教だという方？・・・こちらの方が多そうですね。

では、人間を超える存在が世の中にはあると思っている方？・・・大勢手が挙がりました。

大きな災害があった時、テレビの取材等で「今まで自分が見聞きした中で初めてのことだ」「こんな事が起きるとは思っていなかった」という台詞をよく聞きます。しかし、本を読んでいる人や学んでいる人は、歴史を知っているから、<100年前にこういうことがあった。300年前にこういうことがあった。だから氣をつけないといけない>と思えるわけです。3.11の後には、津波を記録した碑があちこちにあったことが報道されました。また、銀座のソニービルには津波の高さを示す垂れ幕が吊るされて、警告を促しました。自分の体験談だけでは、世の中生きてゆけません。歴史上の出来事を知らなければいけません。

この文章は、畏れて敬うものを意識した方が良いということを現代に投げかけているとお考え下さい。

こうしいわ うま **【九】孔子曰く、生れながらにして之を知る者は上なり。学まなびて之を知る者は次なり。**  
くる これ まな また そ つぎ **困くるみて之を学まなぶは又其の次なり。困みるみて学まなばざるは、民みん斯これを下と為す。**

人物の一等賞から四等賞まで紹介しています。

孔子が言うには、生まれ付いての物知りは一番上である。学んで覚える者は、その次である。苦しんで覚えた者はそのまた次である。民の中で一番下の人たちは、日常苦しんで辛い思いをしても、少しもものを覚ええない。

ここで思うのは、日本の選挙制度です。消費税が10%になりますが、民として苦しんでいるのなら、選挙制度を変えれば良いのです。選挙制度の一番最初は、税金を沢山納めた人が選挙権を得たわけですから、金で買ったようなものです。ルールは時代に応じてどんどん変えなければなりません。選挙制度もそろそろ変わるべきだろうと私は思っています。

こうしいわ くんし きゅうしあ み めい **【十】孔子曰く、君子に九思有り。視るには明おもならんことを思い、聴くには聡きならんことを思い、色いろは温おんならんことを思い、貌おもは恭かたちならんことを思い、言おもは忠げんならんことを思い、事ことは敬けいならんことを思い、疑おもは問うたがわんことを思い、忿おもには難いかりあらんことを思い、得うるを見ては義ぎを思う。**

孔子が言うには、君子には九つの思慮分別がある。

見る時は、はっきり見たいと思う。・・・ぼんやりと見るのではなく、その人の顔つきや表情、瞳の中までよく見なさいということです。

聞く時は、はっきり聞き取りたいと思う。・・・歳をとると、小さい声で悪口を言っているのははっきり聞こえるといいますね。音階によって聞こえ方が違うようですが、はっきり聞こうと思うとよく聞こえるものです。王陽明は、聞く能力を窮めて麓の人の声が聞こえるようになり、小躍りして喜んだという話が残っています。

顔つきはいつも穏やかでありたいと思う。

態度は常に恭しくありたいと思う。

言葉は誠実でありたいと思う。・・・嘘をつくなということです。

仕事には慎重でありたいと思う。

疑わしいことは、きちんと問いただす。

怒った時は、後難を考えて怒りを抑える。

儲け話は、利益を得てよいかを考える。・・・女性大臣が100万円の口利き料をとったとか、秘書がとったとか騒がれています。もし本人が受け取ったのなら、次の選挙は当選できないと思います。

### 新聞から見えるもの — 国家の仕組みが変わる前兆

では、時事評論に参ります。新聞を見た時、氣にして見て戴きたいものをいくつか申します。

#### ・対米で連携強める中・露・朝 / 米中「新たな冷戦」の軌道 (10/19 読売新聞)

中国・ロシア・北朝鮮がスクラムを組んでアメリカに対抗するという流れ、新しい冷戦が始まりつつあるという見出しです。先週の東京フォーラムで新聞社に勤めておられた会員さんにお聞きしましたが、新聞は記者が一所懸命現場で話を集めて記事を書き、それをどこにいつ頃載せるか判断する人、見出しをつける人、タイミングを考える人等々が別々に存在しているから、一人の思惑で記事になることは考えられないとっておられました。こういう記事がチョロチョロ出て来たのは北朝鮮が色々と動いているからで、世の中がまた変わりつつあるなと感じます。

私が以前から申し上げているのは、北朝鮮と韓国の間で水面下の話合いが出来ていて、北朝鮮が上に立って韓国がその下につくという、いわゆる連合政権、連邦政府のようなものが出来るだろうと思っています。それをロシアは承認し、バックアップしていくという

情勢で、ロシアと中国が韓国・北朝鮮をどう取り込むか、どうスクラムを組んでいくか、北朝鮮と韓国が一緒になってからの動きを見据えて手を打っている。そのための話し合いをしていると思っています。

そこに日本がへんなふう絡んでくると、また少し変わってしまうでしょうね。今、下衆の勘繰りで囁かれているのは、トランプさんが別の事実を知っていて、それを踏まえて少し違う手を打つのではないかということです。ですからここ半年くらいの中で、急展開するのではないか……。そうしてみると、この「米中新たな冷戦の起動」という記事はとても気に入りしました。

新聞はヒントを得るものだと前々から申し上げています。ヒントが入っているのだから、おやっと思ったものは自分で調べればよいのです。

#### ・「徴用工」日韓が注視（10/20 読売新聞）

日韓が今、水面下で騒いでいる話です。韓国の労働者を日本企業が徴用してこき使った、それに対して韓国の裁判所が賠償金を命じる判決を言い渡す可能性が高いという記事です。日本企業が裁判で負けそうだということで、日本政府は水面下で担当者を増やしてバタバタしていますし、韓国政府は韓国政府で世論と外交問題の板挟みで解決策を模索しているところでしょう。

根っこになっているのは裁判です。裁判所という所はいったいどうなっているのだろう・・・と、横の知識を広げて考えます。

韓国の大統領は大概、大統領をやめた後に投獄されて、死刑宣告を受けたり自殺をしています。大統領になった人の末路はさんざんですが、だいたい裁判所が絡んでいます。というのは、韓国の裁判所は後に政権をとった人の見方をするからです。

韓国の裁判所はなんなのだろうと思っていたら、昨日の読売新聞に小さな囲み記事がありました。ペルーの裁判所が資金洗浄容疑で拘束されていたフジモリ元大統領の長女のフジモリケイコさんを釈放したという記事です。ケイコさんは、「拘束は選挙妨害である。選挙妨害を裁判所がやってよいのか」と主張していますが、そんなことは合法的にいくらでもやるのです。

こういうふうには、その時の政権の意向で裁判所が動かされる事例が、幾つか出て来たと感じます。日本国の裁判でも、政府の意向でという感じはしませんが、検察が起訴して有罪が確定し死刑宣告をされた後、改めて無罪が言い渡されたということもあります。

ですから今の三権制度というのも見直しをするべき時期に来ているのだと思います。裁判のあり方もそうです。何度も申し上げていますが、裁判官の国民審査もおかしいと私は

思っています。少なくとも過去にどんな裁判をしたかという情報を出した上で、信任を問うべきでしょう。

ということで、横の知識を広げて考えてから、それを一つにまとめてみると、そこから見えてくるものは、国家というものの仕組みが変わる、今がその前兆の段階なのだと新聞記事・その他を見て実感します。

一つは、通貨の危機です。10年くらい前から、もうお金は使えなくなると言い続けていました。最近の新聞や雑誌等では、「通貨が消える」という表現がちらほら出ていますから、時代はそういう方向に動いたなと思っています。したがって今の通貨の仕組みは消滅し、新しい仕組みが出来たらと思うと思います。

それから、政治の危機です。政治は何も決められない状況になっています。日本だけではなく、世界各国がそうになっています。アメリカで変わり者の大統領が出たら、政治が何も決められなくなりましたし、EUからイギリス離脱となったら有効な手段が打てないままです。ですから、政治体制が揺らぐどころか、世界的な仕組みがひっくり返ると思っています。

最後は、司法の危機です。司法制度も根底から揺らいで来ています。

これらすべて、その根っこにあるのはやはりお金だと思っています。

政治が揺らいでいると申しました。というのも、嘘が多すぎます。

#### ・消費税 全商品で2%還元を検討(10/19 読売新聞)

今日の記事では、全ての商品やサービスで2%を還元するという書き方をしていますが、そんな見出しがあるかと思います。「8%を10%にする、その差額分は皆さんに全部返します」・・・なら、やらなければいいじゃないかと思います。よく考えてみれば、朝三暮四ですね。＜消費税の上げた分はポイント制度で国民に返すから、とりあえず我慢してね＞という具合です。政府の思惑通りに良いことだけの見出しに書いていますが、何となく嘘だと思いませんか？ 少なくとも期間は、せいぜい1年でしょう。3年も4年も続くわけがない。だんだん盲ましをして形を変えるでしょう。

こういうふうに見出しでやっているものは、必ず裏があると思って下さい。政府の思う方向に持っていくために、メディアが迎合しているのです。ですから、これはいったい何なのか、自分で考える必要があります。これはおかしいなと、自分が何となく思ったものは、だいたい当たります。事実は誘導された世論だから、誘導された世論以外のほんの少しのところ、正しい話だと思って下さい。私はそのように新聞を眺めます。

・サウジ記者 7分で殺害 (10/19 読売新聞)

サウジ記者 公館で何が (10/20 読売新聞)

サウジアラビアの記者が殺害された事件ですが、今、メディアはこればかり流れています。怖いと思うのは、合法・非合法にかかわらず人の命が軽くなっています。タリバン以降、そうですね。何か大きな事件・事故があると、それから当たり前になってしまう。人身売買や性的奴隷といった言葉が世の中に出回ることが当たり前になって、我々は不感症になっています。

この事件について、最初の報道の出方と今の中味は全然違います。地元メディアの記事によると、トルコ当局が入手した音声データから、カショギ氏は総領事館に入って直ぐに薬物を投与され殺害され、遺体を切断されたとあります。最初の報道では、生きているまま首を切られたとありました。小出しになっていますが、いずれにしても残酷な内容です。

しかし日本の場合は、もっと残酷です。自分で自分の腹を切って、後ろから生きている人の首を切り落とすわけですから。タリバンは日本の神風特攻隊の考え方を真似しています。オウム真理教が起こしたテロも、世界を震撼させました。かなり残酷な殺害方法は、日本が発祥かもしれません。

ですから、諸外国の人は日本を、歴史のある優美な国と評価すると同時に、残酷・残虐で何をしてもかすか分からない、得体の知れない東洋の国という見方の両方が相まっている、ということは意識しておいた方が良いと思います。

最近の新聞報道は悪い事が起きるとい内容が数珠つなぎですが、これから、<どうすれば生き延びられるか>というヒントがどんどん増えてくると思います。常に意識して見ていれば、<こうすれば生き延びられる>というものが見つかるから、実行してみることをお勧めします。

ちなみに私は移動の際、必ず飲み物と食べ物（最低1日分くらいなら僅かな量ですみませんから）をバックの中に入れて持ち歩いています。チョコレートや羊羹、スポーツドリンク等でよいので、食べ物と飲み物は常に持ち歩くことをお勧めします。そして自宅には備蓄が必要です。ひと昔前は3日間分と言われましたが、今や、最低1週間とか、自治体によっては3ヶ月分の用意をして下さいと言っています。勘案すると、1ヶ月位は備蓄するがよいと思います。

荒唐無稽な話をすると、これから起きる災害は3.11の比ではありません。この間の西日本の豪雨災害が発生したと同じ時間帯に、世界各地6か所で大地震が起きています。これ



は、これから起きる大地震の前兆であるという話もあります。

いずれにしても真剣に生き残ろうと思う人は、大災害を想定して対策をとっています。ロシアの地下鉄は地下シェルターの機能を持っているといわれますが、私は実際行ってみて、もの凄く深いという実感を持ちました。津波も同じです。実際に現地に行って、ここまで水がきたという碑を自分で確かめてみると、実感がわきます。実感がわくと、手の打ち方が違います。あと、私がやってみたいと思っているのは、電気・ガス・水道のない生活です。皆さんも何かしら体験してみると良いと思います。体験すると、次の対策に頭が回ります。いずれにしても、身の回りで用意できることはした方が良いでしょう。今年はそれを準備されることをお勧めします。

今年1月発行の「知足」に、「今年は戊戌、ひやひやして綱渡りする世の中になる」と書きました。来年は己亥（きがい・つちのとい）です。亥は爆発するという意味があります。ですから何が起きるか分かりません。今までと違う大きな地震や大津波が来るかもしれません。食べ物も当然のことながらなくなるでしょう。3.11を頭に置いて、日常生活は普通通りに出来ないと考えれば、自分で自分の命を守る動きを始めざるを得ません。これは自宅にいる時だけとは限りません。色々な場面を想定して、少しずつ用意しておく良いでしょう。用意していない人よりは、用意している人の方が危険を回避することができますと思います。

ということで、今日の新聞は悪い事ばかり書いてあって、けしからんと思いましたが、これだけ悪い事が書いてあるということは、それだけでは済まない、もっと酷いことが出るだろうと思って読みました。

### 「三戒・二学」

基本哲学の「知足」は時々お考え戴くとよろしいでしょう。あまりがつつかない。儲けようと思っても、儲けすぎることはよくない。何事もほどほどが良いということです。

昨日は詩吟の稽古で鉄砲洲神社に行きましたが、入口の手水舎に掲げてある額には「威張る時には神に捨てられ 欲張る時には金に背かれ 妬むときには友を持ち得ず 怒るときは己を失うのだ」と、4つの戒めが書いてあります。

本日のテーマは「自戒」です。「三戒」「二学」とも佐藤一斎の『言志四録』にあります。

「三学」はご存知「三学戒」です。少・壮・老と、学び続けることの大切さを説いています。「二学」は「有字の学・無字の学」です。まずは、本（有字の書）を読みなさい。本の中から自分の役に立つものが色々見つかるから、その上で、生まれ変わった気持ちで身の回りをよく見てごらんください。そうすると、動物も植物も鉱物も皆それぞれ自分の環

境に満足して生きていることが分かる。そういうものをよく見て、自分自身の腹の中に修める・・・これが「無字の書」を読むということである。自分の日常生活、仕事の中から、自分に役に立つことを学ぶのが、「無字の学」ということです。

今日のご紹介する本『言志録講話』（山田準著 明德出版社）には、そこらへんが書いてあります。

ちなみに今、佐藤一斎を書いています。一斎の作った「漫言」という漢詩があります。何となく心に浮かんだ取り留めのないことを詠んだということで、世の中に出ているのは「漫言」です。しかし原本をあたると「謾言」という字でした。原本に忠実にしようと思って石川忠久先生に御相談したところ、辞書を調べて下さって、「漫言」の方が穏やかだから、こちらを使おうということになりました。「謾言」は、腹の中に一物あって、誰かを批判したり非難する意味があるそうです。辞典には「嘘偽りを言うこと」と書いてありました。

ですから本を読む時に普通に淡々と読み過ぎてしまいますが、その背景には、色々ものがあるわけです。そういった文字になっていない部分まで読み取って戴くとよろしいでしょう。

お時間が参りました。最後にもう一度確認しておく、自分の身の回りのことで、今後に対して備えるのを考え始めるのに、ちょうどよい時期でしょうと申し上げて講話を終了致します。有難うございました。